

# ビル・ゲイツを語る



## 1) マイクロソフトCEOの退任

2006年6月16日、**Bill Gates**氏が**Microsoft**におけるフルタイムの仕事から身を引く意向であることを明らかにした。

米国時間6月15日の株式取引終了後に記者会見を開いたゲーツは、今後2年間をかけてマイクロソフトでの日常業務から徐々に身を引いていくと述べた。またゲーツはただちに、最高技術責任者（CTO）の**Ray Ozzie**氏にチーフソフトウェアアーキテクトの座を譲ることも明らかにした。また、アドバンスドストラテジおよびポリシー担当チーフテクニカルオフィサーの**Craig Mundie**氏をチーフリサーチ&ストラテジーオフィサーに就任させ、リサーチやインキュベーションの業務を担当させるという。

ゲーツはそれまでマイクロソフトに常勤し、その合間を縫って**Bill & Melinda Gates Foundation**の業務にあたってきたが、退任後はこの財団法人による慈善事業の仕事を優先させる意向だ。

同氏は声明で「ビジネスや技術の分野において、マイクロソフトはこれまでにないくらい強力なリーダーシップを発揮している。社内には**Ray**や**Craig**のよ

うな優秀な技術者がおり、わたしは幸運だと思う。2008年6月まではマイクロソフトに常勤し、Ray や Craig と協力しながら、滞りなく仕事を引き継ぐ予定だ」と述べた。

ゲーツは既に2000年、CEO職を Steve Ballmer 氏に譲り、会長として会社にとどまると発表し、技術業界に驚きを与えていたのだが、この時はそれと同時にゲーツ自身は、チーフソフトウェアアーキテクトに就任していた。

**そして、2008年6月27日、正式引退が公表された。**

米国時間27日、米マイクロソフトの創始者であるビル・ゲイツ氏が会長職を退くにあたっての送別会がマイクロソフト本社会議室で開かれた。この日、同社最高経営責任者(CEO)であり長年の友人でもあるスティーブ・バルマー氏と共にステージに上がり、マイクロソフトのこれまでを振り返った。バルマー氏が送別の贈り物として、大きなスクラップブックをゲイツ氏に手渡した時には、両者とも涙を隠せなかった。

正に一時代を画す巨人の引退劇である！！



## 2) ゲイツー今日までの略歴

**1955年10月28日**

William Henry Gates III、シアトルで誕生。

私立レイクサイドスクールに通った小学校時代には両親の前ですでに天才ぶり

を発揮していたという。11歳の頃には福音書の内容を丸暗記していたとも言われている。

またレイクサイドスクールではコンピュータと、将来のパートナーである Paul Allen に出会った。

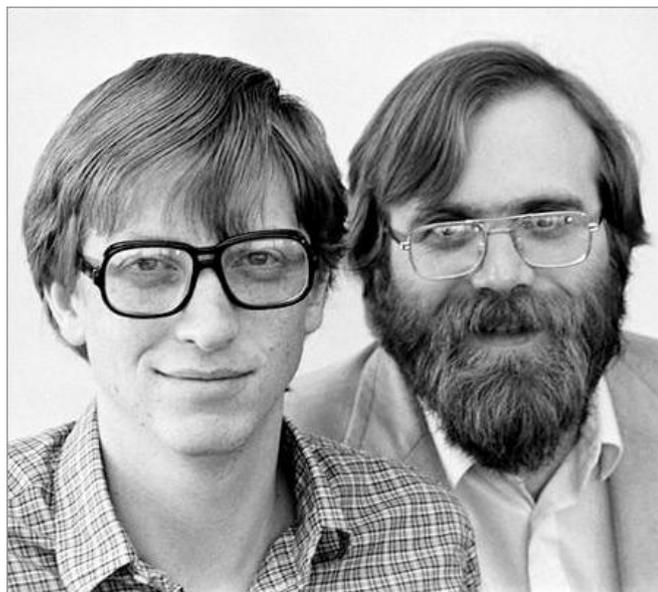
### 1973年

ハーバード大学に入学。現 Microsoft 最高経営責任者（CEO）の Steve Ballmer に会う。

### 1975年

Allen 氏や Monte Davidoff 氏とともにプログラミング言語 BASIC を MITS Altair 向けに開発。

**Allen 氏と Microsoft を設立し、最初のソフトウェアプログラムを発売する。**



### 1976年

ハーバード大学中退。

### 1977年

ニューメキシコ州アルバカーキ近くの砂漠で Porsche 911 を走らせ、スピード超過で捕まる。

### 1980年

IBM からの要請で、PC 向けの OS 「PC DOS」を開発。Microsoft はこれを

「MS-DOS」という名前ではほかの PC メーカーにも供給した。これにより、Microsoft は一気に有名企業となる。

#### 1986年

Microsoft の新規株式公開 (IPO) を実施。

#### 1990年

「Windows 3」を発売。2年間で1000万コピーを売り上げる。

#### 1994年

Microsoft に勤めていた Melinda さんと結婚。その後、3人の子供に恵まれる。

#### 1996年

Microsoft の Internet Explorer の配布方法に問題があるとして、Netscape Communications が米司法省に書簡を送付。

#### 1998年

司法省に独占禁止法違反のかどで訴えられ、担当判事からは審理に協力的でないとい指摘される。Gates 氏は当時、「分かりません」「記憶にありません」という回答を繰り返していた。

#### 2000年

Gates 氏は Microsoft の最高経営責任者 (CEO) の座を Steve Ballmer 氏に譲る。チーフ ソフトウェア アーキテクトとして、ソフトウェアの開発によりフォーカスしていく。

また、妻の Melinda さんと、 Bill and Melinda Gates Foundation を設立し、奨学金事業や、AIDS を予防するための活動や発展途上国で流行する病気の研究活動に力を注ぐ。

#### 2002年

米連邦地裁、5年間にわたった司法省との独禁法訴訟で、和解案を承認。

#### 2005年

エリザベス女王から名誉爵位を授与される。\*註1

また妻の Melinda さんや U2 の Bono らとともに TIME 誌の「Persons of the Year」に選出される。

註： Microsoft 共同創設者の Bill Gates は、全世界のビジネスに対する貢献が認められ、エリザベス女王から名誉爵位（名誉大英勲章第二位（Knight Commander of the Most Excellent Order of the British Empire））を授与された。これは、英国以外で生まれた人物に対して与えられる最高の名誉の1つだ。

同氏はブッシュやレーガンといったかつての米大統領、映画監督のステイブン・スピルバーグ、コリン・パウエル国務長官、シュワルツコフ将軍や、喜劇俳優ボブ・ホープを含む名誉ナイトの仲間入りをするようになる。

だが、同氏は米国市民権を放棄しない限り、「サー」と名乗ることはできない。ただし、名前の後に KBE という表記を追加することはできる。

### 2006年

Forbes の長者番付で、13年間連続・世界一の資産家ランク No. 1 となる。資産総額が推定で 540 億ドルとされていた。

### 2006年

2年後の 2008 年に事実上退任することを[発表](#)。

### 2008年

6月16日マイクロソフトCEOを退任。

## 3) ビル・ゲイツの資産

ビル・ゲイツが世の人の話題になる理由は幾つかあるでしょう。

第一に世界史の中で、始めてソフトウェアという不可思議な商品（？）で一代にして巨万の富を築いたということ、

第二には、その富が前代未聞の巨大なものであること。

下世話な話ですが、人間の成功物語は特にこの点が注目を浴びるわけです。

古くは蜜柑で当てた紀伊国屋文左衛門から、鉄鋼王のカーネギー、自動車王のヘンリー・フォード、石油のロックフェラー等々巨万の富を築いた話はザラにあります。しかしゲイツの富はそれらからも突出して群を抜いています。

何しろ世界の億万長者の番付トップを13年も占めていたのですから、これは類例が無いとも云えます。



その総額は持ち株の株価変動により変わるし、年々増え続けるので、一口には云い難いけれども、現在はおよそ6兆円とされています。

2008年にはそれが3位に転落したということで、これがまた大ニュースになりました。

アメリカの雑誌フォーブスの2007年世界長者番付によると、個人資産は推定590億ドル（日本円で約6兆7800億円）で13年連続の世界一となっていた。大半は同社株の売却益や含み益で、現在も同社株を約8億5000万株（発行済株式数の約9%弱）を保有している。

### ビル・ゲイツ氏、「世界一の富豪」の座を失う

著名投資家とメキシコの通信王に追い抜かれ、14連覇とはいかなかった。

2008年03月06日 11時38分 更新

過去13年間Forbes誌の世界長者番付で首位を走っていたMicrosoft会長のビル・ゲイツ氏が、3位に転落した。

同誌が3月5日に発表した最新の番付では、著名投資家のウォーレン・バフェット氏(77)が1位を獲得した。推定資産は620億ドル。2位はメキシコの「通信王」カルロス・スリム・ヘル氏(68)で推定資産600億ドル。ゲイツ氏(52)は推定資産580億ドルで3位となってしまった。

さて、ではどうしてこれが可能となったかですが、極く一般的にはIPO(株式公開)による創業者利益、ストック・オプションによる株式取得の増大、従ってゲイツの富の大半はマイクロソフトの株なのです。マイクロソフト社の資産総額はおよそ30兆円、その9.7%をゲイツが所有していると言われています。

因みに1975年ゲイツと一緒にマイクロソフト社を立ち上げた仲間である、ポール・アレン氏は、持病があって、1983年には退社、2000年には取締役からも退いています。それでも有数の資産家となっておりますし、遅れて参入し、ゲイツの退任の後を引き受けて後任の社長となったスティーヴ・バルマーもまたベストテンに入る資産家であります。

以てこのマイクロソフトなる会社が如何に巨大なる打ち出の小槌であったかがわかります。

#### 4) ポスト・ゲイツは？

ビル・ゲイツとはどのような人なののでしょうか？

彼のマイクロソフトでの常勤会長としての最後の出社となった、2008年6月27日、ゲイツはマイクロソフト本社の送別会でこのように自己を振り返っています。

「個人でもコンピューターが買える、そんな馬鹿げた夢から、マイクロソフトは始まった！」

そして、この言葉に、隣席した最高経営責任者、ゲイツの後継者たるスティーヴ・バルマーは涙を流しました。

この一言がビル・ゲイツそのものを象徴しているのです。

つまり、ビル・ゲイツという人は、パソコンを世界に普及させた人であり、パソコン世界をほぼ完全に制覇した人なのです。



ゲイツとアレンが1975年、ニューメキシコ州のアルバカーキーでマイクロソフトを創業した当時、コンピューターは専門化が操るIBMの大型機しかなく、6年後の1981年にマイクロソフトがIBMに始めてのソフト、MS-DOSを売り込んで現在のよう「パソコン」がこの世に登場した時に、これが世界中に普及されるということは誰もが到底想像出来ないことでした。

ビル・ゲイツの成功の秘訣は、ソフトウェアを単体の商品として、ハードウェアから切り離して考えることが出来たこと、更にはそのソフトウェアを一回限りでIBMに売ってしまうことなく、誰にでもライセンス売りするという発想が出来たことにあります。(逆に言えばIBMはこの瞬間に大きな失敗をしたことになるわけですが・・・今となってしまうえば、極めて当然の発想ですが、当時はIBMすらが、そのポイントに気付かなかったのです。)

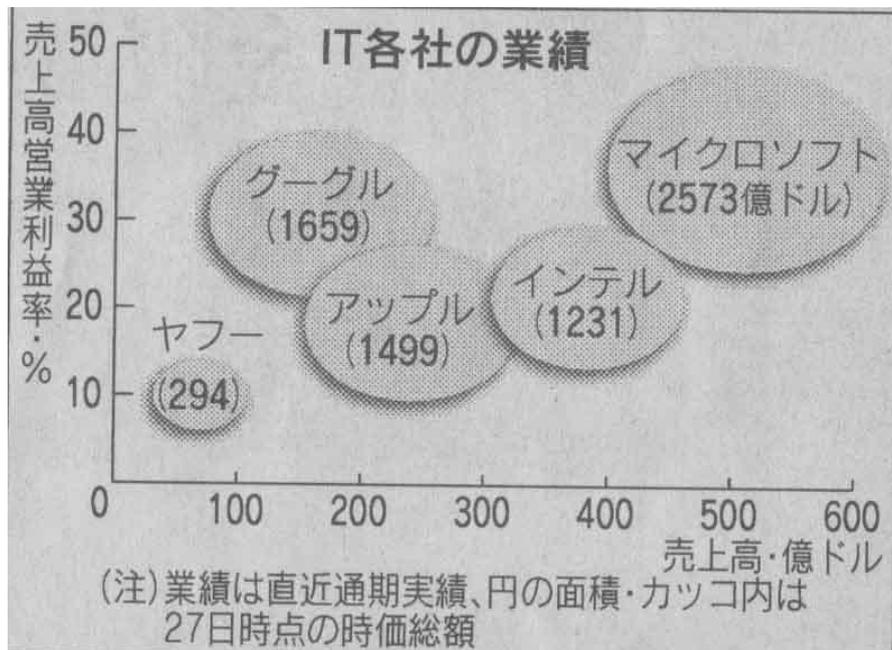
IBMのパソコンはPC/AT互換機 ( **Personal Computer Advanced Technology compatible** )としてあっという間に世界を席捲してしまいました。2007年の世界のパソコン生産は2億5千万台、その90%がウィンドウズを搭載しているということですから、マイクロソフトの巨大な利益も肯けます。

ビル・ゲイツは一代にして巨大な帝国を築き上げた。マイクロソフトは世界のIT業界に君臨し、パソコンの90%以上がウィンドウズを使っているという、正しく稀有の成功を収め、予定通りに52歳で引退を決めた、そして今後は既に作ってある財団で慈善事業に専念する。

これだけの成功的人生を送った人は、古来稀であろう。

財団がどのようなものか、そしてこれからどのような事業をするのか、これは大半の人々にとってはあまり関心はないことだろうが、マイクロソフトが今後どのようなようになってゆくだろうか、は世界中が注目していることである。

何故ならばマイクロソフト及びビル・ゲイツにとって、現在は成功の絶頂であると同時に、最大の危機とも云えるからで、この時点でカリスマ経営者の引退はかなり刺激的な話題なのであります。



### (イ) 有料対無料の闘い

マイクロソフトは創設時点で、それまではハードウェアのオマケとして付けられていたソフトウェアを有料化し、ソフトウェアのみを商品として販売する会社として成功して来た。

このことは、逆に云えば誰にでもライセンス売りをするということで、それがまた大成功の秘訣だったのである。

1980年代に日本ではワープロが全盛で、東芝ルポ、NEC書院等々数多くの機種が現れたが、90年代一転パソコンの時代に入ると、ハードメーカーは何処であろうと問題でなく、ウィンドウズかマックかという色分けになっていた。当初このことが我々にはすんなりと飲み込めなかったのだが、数年経つと世の中すべてがウィンドウズになっていて、始めてマイクロソフトの戦略の強かさが実感されたのだった。

ところがここに来てグーグルを震源地とする「すべてが無料」という波が押し寄せて来ている。

この10年余り、世界中のIT機器はウィンドウズに征服されていたけれども、人々はその恩恵と至便さを享受しながらも、反面ウィンドウズには反感も持ち始めている。マイクロソフトが余りにも儲け過ぎているのではないか、傲慢なのではないか、出る杭は打たれるものなのである。

グーグルは既に無料のワープロソフト、計算ソフトを発表しているし、以前からUNIX、リナックス等の無料OSも根強い人気を保っている。タダよりよいものは無いのだから、流石のマイクロソフトも対抗手段は容易ではないだろう。

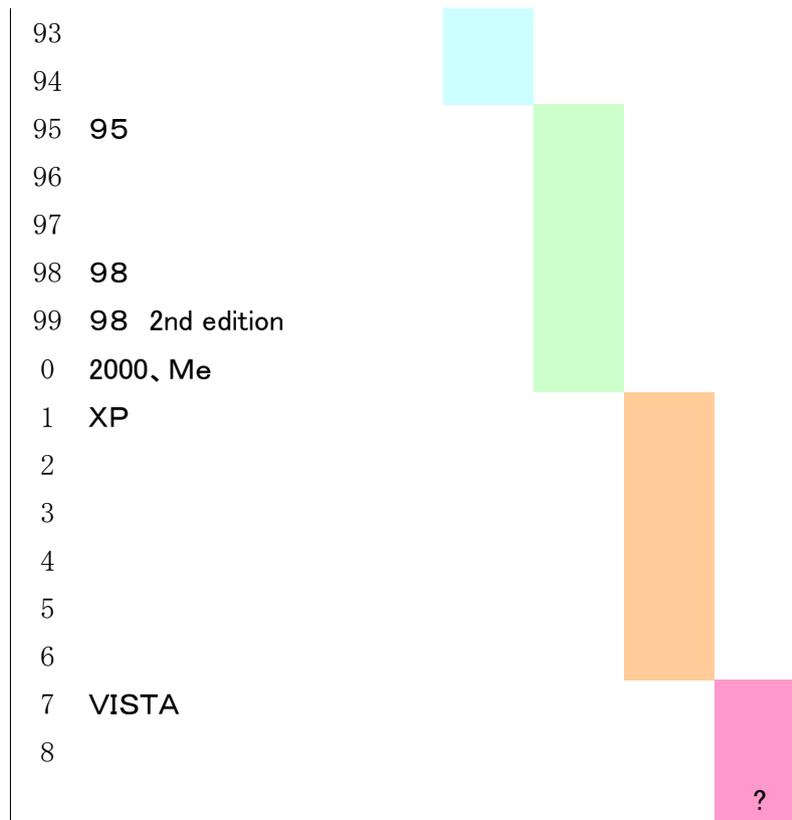
### (ロ) OS進化の限界

2007年1月30日に発表されたVISTAは、一口で云えば不評である。開発名「ロングホーン」ま5年の歳月、技術者8千人、コード数5千万行、開発費用は推定60億ドルといわれており、マイクロソフトが満を持して発表したのですが、95が世に出た時のような熱狂的な雰囲気はありませんでした。

企業、ユーザー共に「多機能、高性能の呪縛に押しつぶされそうな肥大システム」との評価が定着してしまい、10年に一度の生長の押上効果は全く期待できないどころか、マイクロソフト危機説の一つのシルシとさえ云われ始めているのです。

マイクロソフトとは蜜月の最大手インテルですら、社内のパソコン9万台はXPのままと云われており、再三の延期の末にXP販売を打ち切っても、サポートは2014年までの延長をせざるを得なくなっています。

85	初代1.0	
86		
87	2	
88		
89		
90	3.0	
91		
92	3.1	



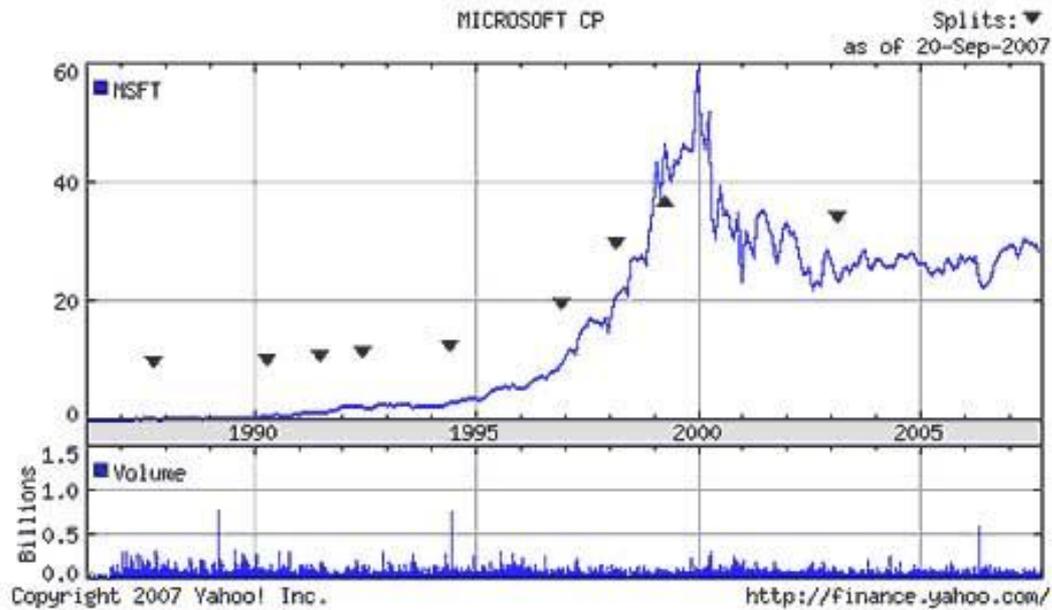
## (ハ) ネット世界

マイクロソフトはやはりパソコンの中で生きている会社です。

既に94年ゲイツ本人が経営の危機を感じたネットスケープ・ナビゲーターの登場があり、この時はインターネット閲覧ソフトの出遅れを自社のインターネット・エクスプローラーを無料で(?)OSに組み込むという強引な手法で乗り切りました。ゲイツは独占禁止法で提訴され、ひたすら「分かりません」「覚えていません」を繰り返して逃れるよりなく、その後司法省との和解で難を逃れているのです。

しかしながら、グーグルの台頭による、ネット事業の立ち遅れについては、未だに突破口が見えておらず、ユーチューブ買収ではグーグルに競り負け、ヤフーの買収は3ヶ月以上を費やしても未だにどうなるか不明です。

今年の6月17日には世界の技術者が開発に協力する、閲覧ソフト・「ファイアーフォックス」最新版がネット上で公開され、初日のダウンロードは800万件という世界記録を達成して近くギネス認定が決まると云われています。



我々全員をIT世界に導いてくれた、マイクロソフトはこの先どうなるのでしょうか??

ビル・ゲイツが引退したからではなく、既にマイクロソフトは王者の頂点から帝国の衰退への道を歩み始めているのかも知れません。

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり  
沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす  
驕れる者久しからず ただ春の夜の夢の如し.....

—おわり—